

学びびや

ヨアムスリツフ

など明治の政治家たちは、文人画家で漢学に造詣と（なる）と揮毫し、本能

「揮毫した校名の扁額が学が深かった富岡鉄斎は1小（中京区）に寄贈して

校の草創期から100年 918（大正7）年、中います。

以上の時を経て、現在ま 国の古典である易経の言 左京区の下鴨学区に

で伝えられています。 葉「日新其徳」（ひにそは、日本人で初のノーベ

校名の他にもさまざまま のとくをあらたにす）の ル賞受賞者となった福川

な言葉が書かれた額があ 書を中立的（上京区）に 秀樹が回を構えており、

り、その筆致や内容には 贈り、京都府大で教えた 下鴨神社・糺の森をま

著名人が手掛けた墨書の 東洋学者の内藤湖南は漢 散歩したといえます。

す。長谷信篤、榎村正直 文の千字文から「克念作 下鴨小に贈った言葉は

扁額が多く残っています。 とてもよく表れていま 聖」（よくおもえはせい 「一日生ることは一歩

も、根本武揚や伊藤博文 聖」（よくおもえはせい 「一日生ることは一歩

京都の小学校には、政 治家や書家、学者などの 著名人が手掛けた墨書の 扁額が多く残っています。 長谷信篤、榎村正直 など歴代の府知事を始め、根本武揚や伊藤博文

筆致や内容 性格を表す

進むことであらう。

この墨書は額装されて現

在も学校に飾られていま

す。力強く引かれた「一

の字が印象的で、信念を

もってひたむきに学問に

取り組む福川博士の人柄

がうかがえます。

同じくノーベル物理学

賞を受賞した朝永振一郎

は母校の錦林小（左京区）

に「ひびけ錦林の子」博

物館 学芸員 森光

と書いた色紙を贈ってい

ます。

衣笠小（北区）には日

本画家の堂本印象が子ど

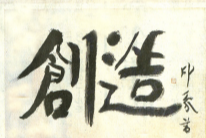
もたちに贈った墨書が今

も体育館に掲げられてい

ふ川あゆ

①福川秀樹「一日生ることは一歩進むことであらう」（昭和時代）、下鴨小蔵②堂本印象「創造」（1973年、衣笠小蔵）

「創造」と書かれた大きな画面にしっかりと「創造」と書かれた1973（昭和48）年の創立100周年を記念して寄贈されました。衣笠校は児童の創意工夫を重んじる校風で、常に挑戦的な姿勢で制作を行った印象と大いに通じるころがあったのでしよう。印象が示した「創造」の精神は今も子どもたちに伝えられています。編の太さや墨の濃淡、筆勢などに書いた人間の思いが表れる墨書は味わい深い、学校のたからものです。（京都市学校教育史博物館 学芸員 森光）



一日生る
ことは
一歩進む
ことであ
らいたい

